



鳩間小中だより

パトウマ

やよい
弥生

第15号



鳩間小中学校校章

3月

発行日：令和6年3月19日(火)

発行者：竹富町立鳩間小中学校

校長 川端 修



令和5年度卒業式

本日は、私たちのために卒業式を開いていただき、ありがとうございます。私は3年前、鳩間小学校に転入してきました。大きなランドセルに、緊張と不安を詰め込み、たくさんの方々に見守られながら、鳩間小学校の校門をくぐったことが懐かしく感じられます。長いようで短かった3年間、振り返ってみると色々な思い出が蘇ります。鳩間小学校での一年目は、寮生や島に住んでいる子どもたちと出会い、どんな人達なのかドキドキしていました。でも、一緒に過ごしていく中で、外遊びや釣りをして仲が深まり、私のドキドキがワクワクに変わっていきました。一年目で一番心に残っているのは、ホシスナ学習です。私は生きているホシスナを見るのも採りに行くのも初めてで驚きました。二年目は、私のいとこであるありすさんが鳩間小学校にやって来ました。今まで同級生がいなかった私は、一緒に勉強したり相談しあったりできる存在にとっても安心しました。二年目で一番心に残っているのは、サンゴ学習です。私はいつも泳ぐ時に緊張しますが、一年目よりも、うまく泳げました。ウミガメやテーブルサンゴ、色とりどりの魚がたくさんいて、とてもきれいでした。三年目である今年は、天真爛漫な4年生2名と私達6年生2名の計4名でスタートしました。ありすさんの誕生日にみんなで浜へ行って誕生日会をしたり、海で算数の授業をしたり、海洋学習では鳩間島の全ての浜のホシスナを調べて、竹富町の海洋教育サミットで発表したり、充実した毎日でした。三年目で私が一番心に残っているのは、二月に行われたトリムマラソンです。二年目のトリムマラソンで私は、みんなのペースに合わせようと必死でした。その時は、自分のペースを守ることができず悔いがありました。その反省を活かし、今年は、自分のペースで頑張ろうと思い、練習を重ねた上でのタイム設定をしました。本番では、設定したタイムと同じタイムでゴールできたので、とても嬉しく達成感にあふれていました。そして、もう一つ心に残ったことがあります。それは、京都の橋本小学校とのオンライン交流です。計3回のオンラインでは、お互いの学校や地域の課題について話し合い、解決策と一緒に考えました。鳩間島からは、海洋ゴミ問題について提起しました。橋本小学校の児童会のみなさんが「海外からのゴミが多いのであれば、色んな言語のポスターを作ってみたらどうか」と提案してくださり、実際に作って見せてくれました。鳩間では他の学校と交流する機会があまりなかったので、このオンライン交流では遠くの人達と繋がり、色々な考えに触れ、たくさん学びがありました。私達は共に学び、共に笑い、共に助け合い、切磋琢磨してお互いの良いところを伸ばしてきました。仲間がいたからこそ、最高の思い出を作ることができました。みんなに出会えて本当に良かったと思っています。鳩間島に来たときは、まだ幼く何も知らなかった私達が、今では学校を支える立場へと成長することができました。それは、経験がなく、まだ未熟だった私たちを、時には厳しく、時には暖かく指導してくださった先生方のおかげです。当たり前のように過ごしてきた小学校生活ですが、その裏では多くの人たちに支えられ、たくさん愛情を注がれていることを知りました。希望に満ちた気持ちで、本日、私たちは卒業します。家族をはじめ、地域の皆さま、学校の先生方、そして、家族と離れている寂しさや甘えたい気持ちをいつも理解し、どんな私達もまろごと受け入れ寄り添ってくれた寮監さん。本当にありがとうございました。中学校に進むにあたって、期待だけではなく不安もありますが、この鳩間小学校で学んだことを忘れずに、自分の夢に向かって前に進んでいきたいと思えます。最後になりますが、卒業式を開催していただきましたことに、改めて感謝いたします。鳩間小学校で過ごした日々を忘れずに、私たちは中学校へと旅立ちます。本日は本当にありがとうございました。

令和六年三月九日 卒業生代表 あかね ありす

